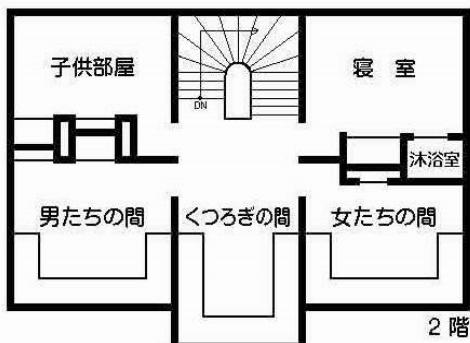


# まち 「トルコ イスタンブールの街」

古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600年もの間、いくつかの帝国の首府であった旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されています。ここに復元した伝統的民家は今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。

## 展示家屋「イスタンブールの民家」



### 【家族をつなぐソファとセディル】

くるっと階段を上がった2階が生活空間です。あがりきったところはソファと呼ばれ、2階の各部屋を連結する役目をなす重要な空間です。



ソファに連続して、エイバンというくつろぎの間、もてなしの場があります。マットレスを敷き詰めた作りつけのベンチは、セディルといいます。セディルは、トルコの伝統的民家には欠かせないものです。

### 民家建築情報

木造3階建て住居（3階部分は屋根裏としており、展示はありません）  
建築面積 76.06 m<sup>2</sup>（約23坪） 延べ面積 146.82 m<sup>2</sup>（約44.5坪）

## かつての高級住宅街の家

復元のモデルとした民家は、19世紀末にスレイマニエ・モスクのそばに建てられたものです。残念ながら、誰が建てた家かは判りません。しかし、近隣にはオスマン帝国の地方の県知事がイスタンブールで宿泊し、<sup>た</sup> <sup>ていこく</sup> <sup>けんちじ</sup> 客人をもてなすための建物があり、その建築年代も同時期なので、19世紀末当時は高級官僚など<sup>かんりょう</sup> <sup>ふゆうそう</sup> <sup>く</sup> 富裕層が暮らす住宅街であったと考えられます。

イスタンブールは、7つの丘の上にたつ街といわれていますが、そのひとつがスレイマニエ・モスクのある丘です。<sup>おか</sup> <sup>まち</sup> <sup>みは</sup> 見晴らしも良く、風通しも良い丘の上の瀟洒な家屋。この家の持ち主も、それなりの地位の人、そしてそれなりのお金持ちであったと想像されます。

## ナザールボンジュ Nazar Boncuğu

民家の玄関の上には、<sup>げんかん</sup> <sup>めたま</sup> 目玉をかたどった青いガラス玉がかかっています。トルコ語でナザールボンジュというお守りです。

ナザールが「目」、ボンジュが「ガラス玉」を意味し、この家の人たちへの「ねたみ」、「そねみ」、「うらみ」といった悪意をもった視線を避ける、除けるためのものです。この悪意をもった視線を邪視とよびますが、意識して投げる邪視だけでなく、無意識に投げかける邪視もあり、容易に避けることはできません。そうした邪視を避けるために、トルコの人びとは質素な生活を心がけているのですが、どこからこうした悪意を受けるかわからないために、青い目玉のお守りを家の壁にかける習慣をもつのです。



トルコのお土産店「ラーレ」には、いろいろな形のナザールボンジュがあります。ぜひ、ご自分のために、あるいはおみやげに、お求めください。